

きらり四日市人

JAPAN DRONE LEAGUE 2025
プロクラスランキング総合チャンピオン

高校3年生 中澤陸斗さん



国内トップレベルのドローンレース「JAPAN DRONE LEAGUE (以下、JDL)」は、年間7戦の総合ポイントでチャンピオンを決定します。

パイロットの操縦スキルに応じた四つのクラスがあり、最上位のプロクラスに所属する中澤さんは、昨年5月の2戦目で念願の初優勝を果たし、8月の5戦目でも優勝のほか、すべてのラウンドで好成績を収め、2025年の総合チャンピオンに輝きました。中澤さんに、ドローンの魅力や今後の目標などをお聞きしました。

出合いは父親が持ち帰った一機のドローン

父が家に持ち帰ったドローンで、興味本位に遊んでいるうちに、夢中になりました。それまで家ではテレビゲームをして過ごしていましたが、ドローンで遊ぶようになってからは、家の中に自分で障害物を作り、ドローンを飛ばすようになりました。



さまざまな大会で受賞したトロフィー



専用ゴーグルを装着しプレーする
中澤さん



ドローンチームメンバーとの集合写真
(前列真ん中)

中学1年生の4月に初めてレースに参加し、一番下のクラスで、3位に入賞してから、ますますのめり込んでいきました。

ドローンは専用ゴーグルを付けることで、ドローンのカメラが映している映像を、まるで自分の目で見ているかのように感じられます。最高時速200km近いドローンに乗って自由に空を飛んでいる感覚になるため、テンションが上がります。そこがドローンの魅力です。

2025年、念願のJDL初優勝

JDLで優勝できると思っていなかったのですが、とにかく嬉しかったです。優勝だけでも嬉しかったのに、総合チャンピオンにまでなれたのは、本当に信じられなかったです。

JDLは、予選では、90秒間でコースを何周できるかを競い、準決勝からは、コース4周のタイムを競います。

予選は、スピードを上げれば周回数は増えますが、その分バッテリーの消耗が激しくなり、90秒経過する前にドローンが止まってしまうことがあります。一方、準決勝以降は、常にトップスピードを維持してゴールすることを目指します。

予選と準決勝以降では、戦略が違うのがJDLの難しいところです。

目標は、世界最大規模のドローンレース

韓国で開催された国際レースに2023、2024年に出場して、海外のレースにも興味を持ちました。今後の目標は、2年に1回開催される、世界最大規模のドローンレース「World Drone Racing Championship」に出場することです。

前回大会は2024年に中国で開催されました。大学受験があるため、今年の大会出場は難しいと思いますが、いつかは挑戦してみたいです。

4月放送のCTY-FM「よっかいち わいわい人探訪！」でも紹介します。(放送時間は裏表紙へ)